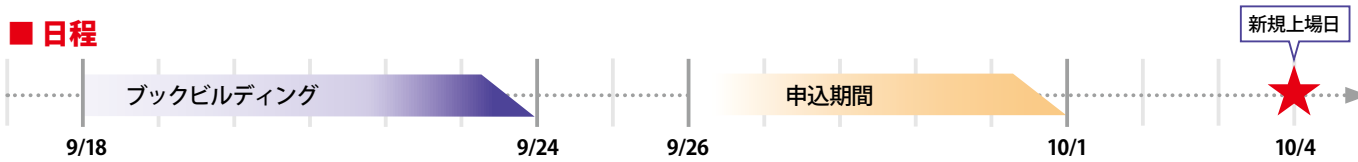


IPO銘柄 日本コンセプト (9386・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
9386	100株	公募: 45.0万株 売出: 77.1万株 (OA18.31万株)	1,020円~1,140円 (8.2倍)	野村証券

■ 日程



タンクコンテナを用いた国際複合一貫輸送サービスを展開

■ 事業内容

タンクコンテナを用いた国際複合一貫輸送サービスを手がける。化学品や洗剤原料、インキ、薬品、食品材料など幅広い分野の液体貨物を対象とし、アジア諸国や欧州各国との間で液体物流サービスを提供している。国内外の鉄道、トラックなど陸上輸送やコンテナ船など海上輸送を外注し、それらを組み合わせたサービスを提供。タンクの気密検査などを行うことのできる洗浄メンテナンス拠点を国内に4カ所、海外ではマレーシアに保有。これらの拠点は洗浄メンテナンスだけでなく、積荷の一時保管や加温、移し替えなど付帯サービスの拠点としても機能している。国際複合一貫輸送サービスの単一業態。

■ 特徴

タンクコンテナはドラム缶やタンクローリー車に比べて大量輸送が可能であるうえ、繰り返し使用できる。各交通手段を組み合わせて対応することで、詰め替えなどの手間がかからず、経済的かつ効率的なうえ、安全性も高い。なお、為替の円高はドル建て決済が大部分を占める同社のビジネスにとっては逆風となる。

アナリストコメント

■ 定量分析

12年12月期の連結経常利益は前年比3.6%増の9億4,000万円を計画する。足元では、為替市場の円高一服を背景に国内企業の輸出意欲が回復しており、同社もその恩恵を受けそうだ。ただ、成長ステージはすでに安定期入りしている。今後は日本を経由しない三国間輸送の拡大などが期待される。

■ 定性分析

高成長が期待できるタイプではなく、IPOマーケットの嗜好にマッチしなさそうだ。海運セクターは大手を中心に株価下落が厳しく、かつ類似企業に挙げられるものも低PER銘柄が多い。ベンチャー企業らしさに乏しく、物色人気という意味ではやや劣る可能性がある。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約16億円。株主のベンチャーキャピタルにはロックアップがかかっているものの、JASDAQ上場銘柄としては荷持たれ感が気になる規模と言える。公開株式に占める売出株の多さもネガティブ。

(小泉健太)

■ 類似企業

日本コンセプト (9386・JASDAQ)	予想PER8.2倍 (仮条件上限)
郵船ロジスティクス (9370・東証1部)	予想PER10.5倍
エーアイティー (9381・東証1部)	予想PER8.1倍

■ 引受証券

野村証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、SMBC日興証券、みずほインベスターズ証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
10年12月期(実績)	7,160	—	505	—	299	—	76.6	10.0
11年12月期(実績)	7,473	4.4	907	79.6	533	78.3	136.3	10.0
12年12月期(会社予想)	7,800	4.4	940	3.6	560	5.1	139.1	10.0

※ 12年6月に株式分割(1株→1,000株)を実施。10年12月期および11年12月期のEPSと配当金は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
10年12月期	3,916	11,773	1,589	389	406.0	13.5	20.2
11年12月期	3,916	11,671	2,064	389	527.2	17.7	29.2

※ 10年12月期および11年12月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	松元 孝義	1,453,000	37.10
2	山中 康利	921,000	23.52
3	ジャフコ・スーパーV3共有投資事業 有限責任組合	220,000	5.62
4	エスアンドアール	200,000	5.11
5	三菱UFJキャピタル	160,000	4.09
6	伊藤 養一	150,000	3.83
7	三菱東京UFJ銀行	150,000	3.83
8	三井住友銀行	150,000	3.83
9	濱 弘	100,000	2.55
10	エムアンドエム	100,000	2.55

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	松元 孝義
代表取締役副社長	山中 康利
取締役(管理部長)	仁科 善生
取締役(管理部経理グループ担当部長)	若園 三記生
監査役(常勤)	桶川 浩造
監査役	有賀 隆之
監査役	相浦 義則

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。